

十島村教育委員会だより 令和6年11月号

さわやかトカラ情報

十島村教育委員会
〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号 TEL 099-227-977

【今年も残すところあと1か月あまり!最後の締めを確実に!!】

十島村教育委員会教育長 木戸 浩

(1) “かごしまの教育” 県民週間(11/1~7日)

毎年恒例となっています“かごしまの教育” 県民週間が、今年も11月1日から7日に実施されました。この時期に合わせて、前後1週間以内に、どの島でも文化祭や学習発表会が実施されました。児童・生徒は、日頃の練習の成果を大勢の前で発表する機会を得られ、人前での緊張感と、やり遂げた充実感を存分に味わえたのではないのでしょうか。また、教職員も地域の一員として、音楽や演劇など発表できる機会を与えていただきました。このような経験は、十島村だからこぞできる大きな財産になったと思います。地元の子も、留学生の子も自己有用感を得られたと確信しています。

地域の中の学園として、島全体での文化的な賑わいが戻ってきたことが、非常に喜ばしいことだと思います。これからも、もうしばらく『文化』に親しんでいただければと思います。



(2) 「生き方のヒント」 ～ 何をもって人生の視座とするか? ～

人は、ともすると安きに流れ楽な方へと舵を取りたがります。私自身も「まあ、明日があるさ」と今できることを先送りしてしまうことがあります。生き方のヒントを祖母の言葉から汲み取った人がいます。俳優の加山雄三さんです。

以前、偶然見たテレビで、加山雄三さんがインタビューを受けていました。加山さんの父上は、一世を風靡した名優、上原謙さんです。その上原さんが晩年に事業に失敗し、大きな負債を抱えられました。インタビュアーがその頃を振り返り、「あんな時、どんな人でも背中に焦燥感が出るものですが、加山さんは全然そんなことはありませんでした。なぜですか。」と質問しました。

加山さんは答えました。「それはおばあさんのおかげです。僕を小さい頃から可愛がってくれた人ですが、僕が子どもの頃、何かあるたびに“おまえは今試されているんだよ”と言い、“荷物が重いのではない。担ぐ力が弱いんだよ”と言ってくれました。そういう言葉が身に付いていたからだと思います。」

祖母の言葉を反芻することで、加山さん自らの人格を錬成していかれたのではないのでしょうか。

「言うは易し、行うは難し」や「現状維持は後退なり」、「慣れた航路も初航路」など、人それぞれに座右の銘があるのではないのでしょうか。

私がいっつも心に留めているのは『不進應知退』という言葉で「進まざるはまさに退くと知るべし」という意味です。ある学校の校長室に掲げられていたものです。これからは現状に満足することなく、改善を図りながら、前進していきたいと思っています。

家族とトカラ富士
中之島学園七年 小原澤洗己

僕は九人きょうだいの四番目だ。茨城県に進学していた姉がこの夏、一年ぶりに帰ってきた。父の提案でトカラ富士と呼ばれる標高979mの御岳に、県外にいる長男以外の家族十人で登った。途中、島の雄大な自然に改めて気付いた。「中之島ってきれい」と思わず声が出た。山頂に着くと、鼻にツーンとくる硫黄のにおいがした。周りは霧に包まれていた。家族で飲むジュースは格別においしくて、疲れが吹き飛んだ。ふと、次に御岳を登るときのことを考えた。一番下の弟は歩けるようになっていないだろうか。姉は成人しているかもしれない。僕はもうなっているだろうか。登山はきょうだいや自分自身について考える機会となった。次は長男も姉と帰省する予定だ。全員そろそろうれしくなる。



人権に関する意識の高まり
全ての人が互いに違いを認め、尊重し、助け合うことのできる共生社会の実現に向けて、様々な人権課題を自らの行動として考え、人権を尊重した行動できるように人権に関する意識を高める地域づくりに努めましょう。

子供のうた
(十月十六日南日本新聞掲載)

さいごまで
今日わたしはかけっこで六いをとりました
いつになったら
一いになれるでしょうか
くやしいです
でもいいんです
一いになれなくたっていいんです
それでいいんです
あきらめずに
がんばることがだいじ

宝島学園三年 坂元 心都



努力を重ねると
平島学園七年 北山 帆泉

私の開会宣言でファンフアーレが流れた。約三週間の練習が終わり、平島学園としての第一回の運動会が始まった。これまでこの運動会の中で一番きつく感じた。演舞の練習が大変だったからだ。一年生から九年生まで同じ演舞をするのは、思った以上に難しかった。副団長だった私は、団員をまとめる責任が大きい。どうしたら楽しく取り組めるか。どうしたら相手を傷つけないように教えてあげられるか。たくさん悩んだ。みんなは私の気持ちに気づいてくれた。うれしくてたまらなかった。さまざま感情で揺れながら、努力のつまった三週間だった。優勝という結果をつかんで、涙が出た。優勝という結果をつかんで、涙が出た。優勝という結果をつかんで、涙が出た。



ファミリー劇場の御案内
11月30日(土)小島島会場 硫黄島ジャンベチームあ・ぼーら
12月7日(土)宝島会場 大道芸 宮崎花ふぶき一座

【毎日楽しい口之島】

口之島学園 8年 大村 大悟

僕は、神戸からの山海留学生として口之島で生活しています。

口之島学園に通っている児童生徒数は、1年生から9年生合わせて15人。都会の学校に比べたらとても少ないです。でも、そんな都会の学校に負けないくらい学園のみんなは、「超」がつくほど明るく、面白く、仲がいいです。僕が、毎日「眠いな」と思いながら登校すると、みんなが大きな声で挨拶をしてくれます。それで僕の眠気は一気に吹き飛び、一日のやる気スイッチが入ります。

休み時間には、授業が始まる時間ギリギリまで同級生達とくだらないことで盛り上がります。授業に入っても切り替えができずに先生に叱られるときもあります。昼休みになると下級生たちと外で遊んだり、室内でカードゲームをしたり毎日いろんなことをして遊んでいます。

楽しいのは学校生活だけではありません。放課後や休日になれば、同級生の家にみんなが集まります。そこではゲームや日常生活について話をし、とても盛り上がります。また暑い日には、寮監さんが海に連れて行ってくれます。海では泳いだり、魚を見つけたりするだけでなく、漂流物で海賊船を作って港を一周したり、海へ飛び込んだりします。

口之島は都会とは違い、公園やカラオケなどの遊ぶところがほとんど無いです。それでも都会では経験できない、たくさんの楽しいことを見つけて、みんなが仲良く、島での生活を送っています。

【諏訪之瀬島学園からのメッセージ】

諏訪之瀬島学園 教諭 吉富 真由美

教職について初の離島への異動。諏訪之瀬島での教職員生活は毎日とても充実しています。

学校では少人数での授業のよさだけでなく、難しさも感じますが、素直にがんばる子どもたちにこたえるために教材研究することがとても楽しいです。また、かっこよく噴煙をあげる御岳を背景にして、朝のランニングやボランティア活動をする中で、他の学年の子どもたちともつながることができ、学園のよさを感じています。

職員室は、「子どもたちのためになることを」とみんなで知恵を出し合う真剣な会議が行われるのはもちろん、たわいもない会話で大笑いできる憩いの場でもあります。

休みの日には、島のみなさんとソフトボールやバレーボール、音楽活動などで交流でき、これまでの教職員生活の中で今が一番充実し生き生きと生活できている気がしています。お盆の八月踊りにも参加することができ、島の伝統行事を楽しむこともできました。島民合同体育大会も盛り上がり、次は文化祭が楽しみです。

大好きなこの島で働けることに感謝しながら、これからもできることを一生けん命取り組んでいきます。

『教職員仲間であるあなた』への 私からのメッセージ

教員生活の中で、同じ十島村の教員として共に過ごすことができるのは貴重なことだと思います。年1回の村教研、TV会議などでお話できるのを楽しみにしています。